GB61-J70
1201001229171

思想研究資料第百二號

日本の將來

（文學博士　田中寛一氏講演）

海軍省教育局

（昭和八年九月以印刷代謄寫）

GB61-J70

日本の將來

文學博士　田中寛一氏講演

（昭和七年三月大湊要港部等にて講演せられたるものなり）

我國の海軍に於ける指導的地位にある、皆様に對してお話する機會を得ましたことは私の最も光榮といたす處であります。

さて、一國の盛衰、興亡を支配する條件は色々ありますが、之を總括いたしますと、その國土に於ける物質的方面と、そこに住まふ人の方面の二つとすることが出來ます。或る人々は、この中で物質的方面を最も重要であると考へるのであります。勿論、物質的方面は重要であるに相違ありませんが、それは程度の問題でありまして、物と人と何れがより重要であるかと云へば、それは人の方面であります。一つの民族が他の民族に比して賢く、道德的であるならば、物質的方面の缺陷は或る程度までは、人力を以て之を補うて餘りがあるのであります。併し一國の將來を考へるには物質的方面をも無視することは出來ません。それは今日では一つの國は他の國々に對して複雜な利害關係を有つて居りますから、列國との折合が惡くなつて、例へば列國から經濟封鎖をやられるといふ樣な場合を想像しますと一國の運命に對して物質的方面が極めて重要な役割を演ずることになります。その樣な極端な場合を考へないに

GB61
J70
國立國會圖書館藏書
I種
W
1201001229171

しても、平時に於ても一國の文化の維持と、その向上發達を齎らす爲には、やはり物質的方面を無視することは出來ないのであります。

右の如き意味に於ける物質的方面は、吾々の日常生活を維持するに必要な衣食住の原料と現代の文化生活を動かす原動力と認められて居る鐵、石炭、石油の三種の資源及び、吾々が絶えず呼吸して居る空氣の狀態とに分けて考へることが出來ます。然らば、我國に於ける此等の方面は如何なる狀態でありますか、その事については私よりも皆樣の方が遙に深く研究されて居ることゝ存じますが、順序として簡單に述べることに致します。

先づ、衣食住の中の着物の原料について考へますと、これは甚だ樂觀を許さないものがあります。御承知の如く、綿は印度や米國から年々莫大な額を輸入し、羊毛は濠洲から買つて居ります。唯、綿は原料として輸入し、加工して綿絲又は織物として外國に輸出するものが多いので、輸入超過の額は約八千萬圓程度のものであります。然るに羊毛の方は輸入する丈けで、殆ど全部を日本人の衣類用に使ふのであります。そして、その額は大凡一億三・四千萬圓であります。但、吾々の心強く感ずるのは生絲及びこの製品が經濟界の景氣のよい時は年々約八億圓の輸出になつて居りますので、羊毛を輸入しても尙輸出の方で餘りが出來るのであります。それで平時に於ては綿絲、綿布、生絲、絹布等を輸出することによつて衣料の方のことは心配がないのでありますが、一朝事のある場合を考へると心細いことであります。併しながら、衣類の原料は之を或る程度までは貯藏することも出來、更に又、若しも吾々が滿蒙地方に於ける羊毛とその地方に試作せられて居る綿の產額を增加することに努力しましたならば、所謂自給自足が出來る樣になることゝ信じます。

第一表　本邦衣料輸出入（單位百萬圓）

年次		輸入	輸出	差引入出超高（△入超）	生絲の輸出を除外した入出超（△入超）	絹物全體を除外した輸出入超（△入超）
大正	2	299	390	91	△ 98	△158
昭和	1	941	1,481	540	△211	△352
	2	861	1,439	575	△179	△328
	3	783	1,397	613	△119	△274
	4	773	1,549	776	△ 10	△177
	5	499	946	447	32	△ 85
昭和三—五年平均	絹	4	791	787		
	棉	505	422	△ 83		
	毛	140	6	△136		
	麻	23	2	△ 21		
	雜	13	76	63		
	計	685	1,297	612	△ 32	△179

次に食料問題でありますが、之れも從來、人口食料問題として識者の頭をなやまして居る所であります。即ち、從來、輸出、輸入差引いて年々一億圓から二億圓程度の輸入超過を來たして居ります。即ち、日本內地に生產する食料を以て內地の人々を養ふことが出來ないといふのが現狀であります。それで產兒を調節することを以て此の問題の唯一解決法と考へる人々が出來たのであります。併し、それは極めて消極的な話であつて、吾々の考へでは、今に一方には日本人の生產率も減少し、他方には一層

第二表　本邦食料品輸出入（單位百萬圓）

年次	輸入 粗生食料	輸入 精製食料	輸入 計	輸出 粗生食料	輸出 精製食料	輸出 計	差（△入超）
大正 2	77.5	43.1	120.6	24.7	37.5	62.1	△ 58.5
昭和 1	243.2	107.1	350.3	49.2	98.1	147.3	△203.0
2	222.7	100.8	323.5	54.2	91.4	145.6	△177.9
3	208.9	89.6	298.5	40.1	116.2	156.3	△142.2
4	214.4	56.8	271.2	48.2	112.0	160.2	△111.0
5	147.6	60.7	208.3	42.1	86.8	128.9	△ 79.4

多くの日本人を必要とする時期が到來するとおもはれます。それ故に今から人口の減少を計畫的に實行することは無謀な考だと信ずるものであります。殊に世界の中には日本よりも遙に人口の稀薄な地方も多いのでありますから、公正の原理からいつても、人口分布の現狀を維持しなければならぬといふ理由はない、それを無理に墻壁を設けて日本人の進出を防止して居る國の多いことは人道上許すことの出來ない事實であります。不都合なことではあるが今暫く現狀に甘んじなければなりませぬ。さう致しますと人口食料問題は依然として吾々自身で考へなければならぬ重大事であります。それに對して朝鮮や滿洲の產物を利用する方法を講ずることも一方法でありますが、私の考へでは日本內地だけでも優に此の問題を解決することが出來ると信ずるのであります。それは一方には同じ廣さの面積から一層多くの食料を生產し、他

方には現在の食ひ方を改善することでありまして、その兩方面に於て、今少し科學的知識を利用することが必要であります。

耕作に於て科學的知識を利用することに對して考へるべきことは色々ありませうが、その一つの重要なことは安價な肥料を供給することである。肥料は年々一億五千圓內外の物を輸入して居ります。肥料の中で大切な一つは硫安でありますが、その爲には、例へば鴨綠江の水を日本海に注いでそこに大發電所を作り、その電力を利用して無盡藏にある海水を分析して、それによつて得た水素と空中の窒素とから硫安を作る如きことは一つの肥料安價製造法であるに相違ありません。肥料の原價が安ければ、今政府で行つて居る肥料の運賃低減と共に農民をして適當に肥料を用ひることを得しめることに對して有效であります。

さて、一方には右の樣にして肥料の價を安くし、耕作法を改善することから一定面積に於ける生產を一層多くすることに努めると同時に、他方には日本人の主食物である米についていへば玄米を常食とし得る樣に調理法を合理化し、更に、よく咀嚼して食事する習慣をつけることが必要である。此のよく咀嚼することが健康を增す外に食糧問題の一つの重要な鍵であることを忘れてはなりませぬ。大發明家エヂソン翁は曾て、現代人の有する二つの惡習慣として過眠と過食とを擧げ、若しも多くの人々が一日に三四時の眠りと今食つて居る分量の三分の二の食事で滿足するならば今よりも遙かに健康に、そして頭

が明晰になるといひました。之を食事についていへば、實際に吾々は必要以上に多くの分量を食つて居るのであつて、之れは恐らくは調理法の發達の上に、武士の早食ひの習慣の民衆化、肉食から來る咀嚼しないで速喰ひをすることに原因があるものとおもはれる。彼の飢饉の年に死亡率が減少するといふ事實は吾々が如何に平素過食して居るかを證するものである。試みに十分に咀嚼して食べる習慣をつけると確かに食べる分量を少くして滿足する樣になるものである。それ故に國民の全體が常によく咀嚼することになれば國民の健康は增し、又日本の食糧問題解決の上に貢献するのであります。そうして見れば、さしも重大問題と考へられて居る食糧問題もやり方によつては解決がさほど困難な問題ではないことが分るのであります。但、主要食料としては米の外に小麥、砂糖等があり、又日本の特產物としては水產物があり、これ等についても考慮を要するのでありますが今は唯米の問題だけについて考へてその他のことは皆さんの御研究に俟ちたいとおもふのであります。

第三表　本邦主要食料品輸出入（單位百萬圓）

年次	輸入 米	輸入 小麥	輸入 砂糖	輸出 水產物	輸出 精糖	輸出 小麥粉
大正 2	48.5	12.4	37.0	16.2	8.5	0
昭和 1	50.7	93.3	83.7	22.7	34.0	19.8
2	78.9	53.9	75.8	20.1	28.9	14.3
3	33.7	67.8	65.0	17.4	38.4	24.7
4	22.8	70.9	31.2	22.3	30.0	26.8
5	19.6	41.5	26.0	18.1	26.7	14.5

次に住居の問題でありますが、その原料たる木材は米國から又、鐵鑛は印度や南洋から、鐵材は米國から多く輸入されて居ります。併しそれは安いから輸入するのであつて、日本に木材がないといふ譯ではなく、又、鐵については滿洲の鞍山地方のものを利用すれば啻　我國の需要を滿たし得るだけでなく、輸出さへ出來る樣になるといふことであります。各種鋼材の輸入は昭和四年までは毎年一億圓以上であつたが我が製鐵業の發達によつて今日では漸次減少しつゝある。昭和五年では約五千萬圓程度の輸入であつた。又セメントはその分量も多く性質もよいので南洋あたりに盛んに輸出して居る樣な狀態であります。

第四表　本邦仕料輸出入（單位百萬圓）

年次	輸入	輸出	差引（入超）
大正 2	11.6	9.6	2.0
昭和 1	112.4	21.5	90.9
2	110.1	21.2	88.9
3	119.1	23.1	96.0
4	95.3	29.5	36.3
5	58.6	24.1	34.5

現代文化の原動力たる鐵、石炭、石油の中鐵については既に述べた通りでありますが、石炭は日本內地にも澤山ありますが、吾々が滿洲に於て有つて居る權益を利用すれば、有り餘る程の分量があります。唯石油は內地に產するものが少く、又我國の勢力範圍內にあるものを入れても甚だ不十分であつて心細い譯であります。その缺陷を補ふ爲に考へ出されたのが、撫順炭坑の頁岩から油をとることゝ石炭を液化する工業であります。採算はとれないにしても有事の日の爲に大に此の工業を盛にする必要があります。又平常

から適當な貯藏を企てゝ置く必要があります。此の二つの方法によつて或は起るかも知れない列國からの經濟封鎖に對抗し得ると考へられるのであります。

物質的方面で以上述べたものよりも一層重要なと考へられるのは空氣の狀態であります。蓋し吾々が絶えずその中に包まれ一刻もそれなくては過ごせない空氣の狀態の善し惡しは人の能率を左右するものでありまして、昔から時を異にし處をかへて文化が發達しましたが、或る地方に大文化の起つたときにはその地方の空氣の狀態がよく、又盛な國が衰へた原因の一つが空氣の狀態の惡化にあるとさへ考へられるのであります。こゝにいふ空氣の狀態とはその物理的方面でありまして、空氣中に含まれる酸素や炭酸瓦斯の分量の如き化學的成分ではありません。從來、空氣について考へるときには主として化學的成分の方面に限つて居ました。例へば、換氣法の惡い活動寫眞館などに入つて三、四十分も居ると頭痛を覺えるものであるが、それは多人數一室に集つて居る爲に室内の酸素の分量が減じ、炭酸瓦斯が增加した爲めであると考へたり、或は人の呼氣中に人毒と稱する有機物質がある爲めだと考へたのでありますが、フリユッゲやパウルの實驗によつて、その樣な考への間違ひであることが證明せられたのであります。即ち氏等は三メートル立方の硝子製の實驗室を作り、その中に人を靜坐せしめて三、四時間も經つと、その人は頭痛を感ずるのであります。その時、室内の人に壁に穿つた穴を通して室外の新鮮な空氣を呼吸せしめても頭痛はやまないし、又室外の人をして實驗室内の不潔な空氣を呼吸せしめても頭

痛は起らないのである。然るに、今、實驗室に備付けてある煽風器を動かして室内の空氣を攪亂すると、今まで感じて居た頭痛がやむのであります。この實驗によつて、室内の人の頭痛の原因は酸素の分量が減じたり、炭酸瓦斯の分量が增した爲でなくて、他の事情によるのであることが分ります。即ち、室内の空氣が暖まつて、身體内に生じた餘分の熱を發散し得なくなる爲である。それで風を起すと體熱の發散を容易ならしめるので頭痛がやむのである。それ故に若しも室内の氣温と濕度を低くして置くと餘程長く室内に居ても少しも頭痛を感じないのであります。

頭痛は吾々の心身が作業を營むに不適當な狀態を呈して居るといふことを吾々に警告して呉れるものであります。從つてその樣な狀態に於ては作業能率は低い筈であります。そこで吾々の心身の能率を高める爲には氣温、濕度及び空氣の運動即ち風の有無といふ物理的條件が適當でなければならぬのであります。此の外に空氣の物理的條件としては氣壓の高低といふことがありまして、例へば登山や飛行機で海拔高い處に昇る樣な場合には氣壓が低く　從つて一定容量中の酸素の分量が少い爲に能率を低下せしめるものでありますが海拔あまり高くない場所では氣壓のことは風の起る原因としての外は暫く除外して置いてよいのであります。それで右述べました空氣の物理的條件中で人間の活動に最も著しい影響を與へるのは氣温であつて、之を平均温度からいへば華氏の三十八度から七十度内外の間が最も能率的であるとされて居ります。

空氣の種々の物理的條件が複合した結果が、氣候といふ現象でありますが、ハンテイントンは氣候特に平均氣温、日々の氣温の最低及最高の範圍、毎日の氣温の變化、颱風の起る度數等から世界に於ける人間の作業能率度即ち人間勢力の度を最優、優、中、劣、最劣の五段階に區別したのであります。それによると、氣候の最優に屬する地方は歐洲の北海沿岸地方と北米合衆國の東北部及びカナダの南部に亙る地方であり、優に屬するのは、右兩地方に近接した地方、北米のキャリフォルニアの沿岸地方、南米のパタゴニア地方、ニュージーランドから濠洲の東南部海岸地方に亙る地方及び日本の内地と朝鮮半島であります。右擧げた以外の地方は總て中以下の氣候を有つて居るのであります。さうすれば能率上から見た我國の氣候は世界第一ではないが、第二位を占めるよい狀態であるといはれる。

以上述べた所を要約しなすれば、文化の維持とその發達の要件としての我國土に於ける物質的條件中、或るものは有り餘る程潤澤であり、他のものは極めて貧弱なものもあるが、適當な方法を講ずることによつて皆滿足し得る程度のものである。而して滿蒙地方の資源に著眼しそこに有する權益を充分に利用することが種々の方面に於ける物質的不足を充實する所以であることを知つたのであります。滿洲が日本の生命線であるといふことは單に軍事上のこと許りではないのであります。更に人間能率に重大關係を有する氣候は世界第二位に位するだけのよい氣候であることは天惠の豐な國土として吾々は感謝しなければならないとおもふのであります。

我國土に於ける物的條件は右の如くでありますが、これ等の諸條件は、そのまゝでは何等の意味をなさない。金の鑛脈があつても、これを發掘し精製するのは人の力を俟たなければならぬ。即ち物的條件は人の力によつて初めて價値を發揮するものであります。そこで、日本の將來はこの國土に住まふ日本民族の身心の素質の如何とそれが道德的であるか否かといふことにかゝつて居るといつてもよいのであります。

日本人の身體はよいか惡いか。その働きはどうであるか。從來、日本人の身體については誤つた考が一樣に信ぜられて居た。即ち、それは日本人の身體は歐米人に比して劣つて居るといふ考であります。然らば如何なる點を捕へて日本人の身體が劣等であるといふか。恐らくは身長の短小なこと、それに關聯して體重の少い爲であらうとおもはれます。然らば身長の長短や體重の多少が身體の優劣を判定する標準になるかといふに、それは一概にはいはれない。同一民族の中でも身長の大小がある。而して身長の小さいものが必ずしも劣つた身體であるとはいはれない。更に考へるに、日本人の短小なのは、主としてその脚が短いことによる。然るに生活に必要な、あらゆる器官は薦骨から上に包藏せられて居るのであるから、軀幹の發達のよいことは活力の旺盛なことを示すのである。米國の心理學者ポルチユースはハワイに於ける諸民族について身心の諸特徴を測定して、日本人の軀幹が發達して、脚の短い特徴を發見して、この樣な身體の構造が現代及び將來の社會生活に對して理想的なのであるといふ新

説を提言しました。その意味は、現代もさうであるが、將來益〻その傾向が著しくなるとおもはれるのは、坐して作業する場合よりも立つて作業する場合が多いことである、而して立つて作業する場合には脚の長いものでは身體の動搖の度が著しく、從つて脚の長いものは全身の疲勞を感ずることが多いといふのであります。この事に關聯して特記すべきことは、彼の北清事變の際日本の陸兵は歐米各國の陸兵に伍して、行軍力が最大であることを立證した。平均身長からいへば十二センチ以上も低い日本兵の此の如き力を有することは、歐米軍事當局が考へた樣に一つは日本軍人は精選されて居ること、一つは平素の訓練がよいことに基くであらうが、尙他に理由がある。即ち、日本人の常食が植物性のものを多くとる爲に耐久力が大であること（肉食者は一時的の力は大であるが耐久力に於て劣つて居る）と日本人の身體が軀幹が發達して脚の短い爲であらうとおもはれます。更に考へますに、元來人間の身長についていふときに今、慣習的に測定して居る樣に脚の長さを加へるべきではない。眞の身長は薦骨の處から頭の頂點までである。それは四足獸の身長を測定する場合について見れば直ちに了解せられるのであります。若しも此の考が正しいとすれば、從來の如くに脚の長さを加へた全身長について比較して、その長短によつて優劣を定める方法は誤りであるといはなければならぬ。

私は體格の優劣判定の標準として英國人ドライア氏の提案に從つて、軀幹長（眞の身長）と體重の比及び胸圍と體重の比率を次の如き公式で算出することを試みた。

$$\frac{W^{\frac{1}{3}}}{\lambda} \quad (W^{\frac{1}{3}}\cdots\text{體重の}\tfrac{1}{3}\text{乘},\ \lambda\cdots\text{軀幹長})$$

$$\frac{W^{\frac{1}{3}}}{Ch.} \quad (Ch\cdots\text{胸圍})$$

右の如き公式を日本の青少年及びシカゴの青少年の測定の結果に適用した處、兩者優劣がないことを發見した。つまり適當な正しい標準を立てゝ比較するならば日本人の體格は決して歐米人に比して劣つて居るといふ結果にはならないのであります。今まで日本人の體格が劣つて居るとしたのは不適當な部分に就いて比較して居た結果に外ならないと考へられるのであります。

次に身體について考ふべき方面は、その機能である。而して身體的機能は之を力量、速度、巧緻度の三方面に分けられる。然らば、それ等の方面に於て日本人は歐米人に比して如何なる地位を占めるでありませうか。

先づ力量について見ます。全身の力量を見る方法はないではないが、測定が簡單で、比較的よく全身の力量を代表すると考へられるのは握力である。握力は體重と密接な相關々係を有するもので、體重の大なるものは握力も亦大、體重の小なるものは握力も亦小であるといふ關係が著しいのであります。從つて米國人に比して體重の著しく小い日本人の握力は著しく小いであらうと考へられる。然るに測定の結果は第五表に示す樣に兩者殆ど差がないのであります。第五表の日本人についての結果は丸山良二

氏が名古屋地方の青少年について、米國のはスメドレー氏がシカゴの青少年について測定した結果であります。而して測定器は兩方共にスメドレー氏の握力計であります。こゝに御注意を願ひたいことは年齢の計算の仕方であります。スメドレー氏のは八歳といへば滿八歳から九歳未滿を含め、九歳といへば滿九歳から十歳未滿を全部含めたものであるのに、丸山氏のは八歳といへば七歳七ヶ月から八歳六ヶ月までを、又九歳といへば八歳七ヶ月から九歳六ヶ月までを含めたもので、同じく八歳といつても丸山氏のはスメドレー氏のよりは半ヶ年だけ小さいことになつて居ります。この様に年齢の計算の上に差があるにかゝはらず何れの年齢に於ても男女とも優劣

第五表　日米人の握力（單位kg）

年齢	右手 男 日	右手 男 米	右手 女 日	右手 女 米	左手 男 日	左手 男 米	左手 女 日	左手 女 米
6	9.4	9.2	8.2	8.4	8.9	8.5	7.6	7.7
7	11.0	10.7	9.5	8.9	10.3	10.1	8.9	9.2
8	12.8	12.4	11.3	11.2	12.2	11.7	10.4	10.5
9	15.2	14.3	12.8	12.8	14.5	13.5	12.0	12.0
10	17.2	16.5	14.8	14.7	16.4	15.6	13.7	13.7
11	19.0	18.9	16.8	16.5	17.9	17.7	15.7	15.5
12	21.4	21.2	19.6	18.9	19.4	19.7	17.9	17.8
13	24.7	24.4	22.2	21.8	23.4	22.5	20.9	20.4
14	30.3	28.4	25.2	24.8	28.3	26.2	23.4	22.9
15	36.4	33.4	28.1	27.0	33.7	30.9	25.1	24.9
16	40.5	39.4	29.8	28.7	36.0	36.4	27.2	26.6
17	44.2	44.7	30.4	29.6	39 3	41.0	27.1	27.4
18	46.2	49.3	30.0	29.8	41.6	45.0	26.1	27.7

がないことになつて居ります。つまり日本人は身體の割合に握力が大であるといふことになります。

力量の大小は上古に於ては生活に對して重要な意味を有つて居たのであるが、現代及び將來の社會生活に對しては速度や攻緻度に比してあまり重要ではありませんが、それでも相當程度の力量は必要なのであります。而して、その力量が割合に大なることはよろこぶべきことであります。速度については直接に比較し得る材料を有しませんが、手足の運動の速さでは恐らくは日本人は歐米人に比して劣つては居ないであらうと考へられる。又巧緻度に於ては日本人は世界中で最も優秀であるといふ一致した意見は正しいとおもはれる。尚附け加へるべきことは、日本人の腰の強いこと、膝關節の屈伸の自由なことから歐米人に比して種々の作業上好都合であるといふ事實であります。この様に考へますと日本人の身體的機能は極めて優れて居ると斷言してよいとおもはれるのであります。

身體について、最後に考へるべきことは壽命の長さであります。統計によりますと、日本人の平均壽命は、男子では四十二歳餘、女子では四十三歳餘といふことになつて居て、之を最長命な那威

第六表　列國人の平均命數（零歳に於ける）

國名	男	女
日本	42.06	43.20
英國	48.53	52.38
米國	49.32	52.54
獨逸	55.19	58.82
佛國	52.19	55.87
伊國	44.24	41.83
瑞西	49.25	52.15
瑞典	60.72	62.95
諸威	65.03	68.89
丁抹	60.30	61.90
濠洲	55.20	58.84
印度	22.59	23.31

人と比較しますと約二十年以上の差を以て日本人は短命であります。然らば、その原因は何であるかといひまするに、それは、日本に於ては嬰兒の死亡率と青少年の死亡率の多いことに基くのであります。我國の嬰兒は滿一歳にならない中に死亡するものが百人中十三人といふ高率を示して居ります。これは育兒法に於て不完全な所がある爲であります。又青少年の死亡率の大きいのは結核によつて倒れるものが多い爲であります。これは榮養法の不適當なこと、公衆衞生の施設の不十分なこと、公德心の弱いといふことが原因でありませう。それ故に若しも將來これ等の原因を除去いたしますれば、平均壽命を十年、二十年と延長することは決して不可能ではないと信じます。決して日本人が元來短命なものでもなく、又素質的に結核にかゝり易いのではありますまい。それ〴〵適切な方法を講ずれば必ず延命することが出來るのであります。

以上日本人の身體について述べました處を要約しますと日本人は短小ではありますが適當な標準によつて比較するならば、決して劣等な體格の持主ではない、殊に身體中で最も大切な軀幹の發達の著しいといふ特徵があつて、作業する上に好都合な構造を有つて居り、その働きは色々の點に於て極めて優秀であるが、特に器用さに於て最も優れて居ります。併し一つ遺憾なことは平均壽命の短いことでありますが、これも將來適當な方法を講ずることによつて必ず延長し得るものであつて、決して現狀を以て悲觀すべきものではないのであります。

次に、日本人の精神的活動に於ける特質を考へます。精神活動は之を智能と情意とに分けて見ることが出來ます。先づ日本人の智能は諸外人に比較して勝つて居るか又は劣つて居るかといひまするに、それに關して二、三の研究があります。その一つは北米加州在住の日本人の子弟についてスタンフオド大學のターマン及びダーシー兩氏によつての檢査の結果である。加州の大都市サンフラン・シスコ、オークランド及びロスアンゼルスに在住のものと、歐洲の諸地方(從つて民族が違つて居る)からの民族の子弟の智能を比較すると第七表の如くになります。第七表中智能率とあるのはビネー・シモン法によつて檢査した結果から各個人の精神年齡を定め、それを生活年齡(或は曆年齡といつて、そのテストを受けるときの實際の年齡)で割つて、それを百倍した値である。即ち、次の如き公式で算出せられるものであります。

第七表　諸民族の智能率

民族	智能率
日本人	99.2
北歐人	100.3
東歐人	85.6
南歐人	77.5

$$智能率 = \frac{精神年齡(月)}{生活年齡(月)} \times 100$$

此の方法によると實際の年齡には差があつても智能の素質について直接に比較することが出來るので

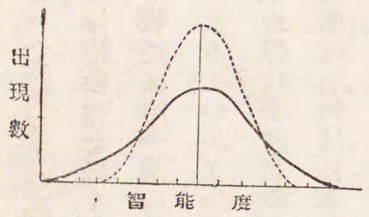
あります。さて、第七表によりますと日本人は東歐人（スラブ）や南歐人（主として伊太利人）に比較すると著しい差を以て優れて居ることが分りますが北歐人に比較すると多少劣つて居ることになります。然るに此の檢査の直接責任者であつたダーシーは此の結果に於て、日本人については多少割增して考へなければならぬ、それは日本兒童は英語に習熟することに於て多少他の民族よりも劣つて居る、而してビーネ・シモン法（このとき用ひたのはターマンが米國人を檢査するに適する樣に改訂したテストである）は英語の力を要することが多いからであるといつて居る。これは恐らく事實でありませう。それは元來、日本語は外國語と語系を異にして居て、日本人は外國語に習熟することが困難である上に、彼地に於ける日本兒童は日中は米國人と同一の小學校で勉强するが、午後は日本語學校で日本語を學び、家庭では兩親が日本語を使ふといふ樣な有樣であるから英語に親む機會を減せられることになるからである。そこでダーシーは世界大戰中米國陸軍で作つて用ひた言語の力を必要としないテストを以て檢査して見たのであります。その結果は第八表に示す如くに著しい差を以て日本兒童は他の民族よりも優れて居るのであります。

第八表　諸民族の十二歲に於ける智能點數

日本人	79.5
米國人	68.3
伊太利人	51.0
西班牙人	52.7
葡萄牙人	52.5

今一つ重要な研究があります。それはトロント大學教授サンデイフオドがヴアンクーヴア地方に於ける日本及支那の兒童について、檢査したものであります。そのとき用ひたテストはやはり言語の力を必要としないもので、それによつて白歐人を檢査すれば智能率の平均は一〇〇となる如きテストであります。その樣なテストを適用した結果、支那人のが平均一〇七・四、日本人のが平均一一四・二となつて居ります。即ち日本人が最優で支那人がこれに次ぎ白歐人は遙かに劣つて居ることになる。サンデイフオドは此の結果を解釋して、これは外國にまで進出するものは、その民族中で優秀なものである爲であるとするのであります。それは一理あることである。蓋し、之を町村についていへば、あまり素質のよくないものは外國に行かないで故郷に在住するからである。併し又他面から考へると町村長或は小學校長になり得る位の素質を有する人々はあまり外國に出掛けないし、又之を一國についていへば大臣、陸海軍の將官や大學教授、府縣知事、大實業家等の地位にまで昇り得る如き素質を有するものは外國に進出することは少いであらう。それで今、日本內地に居るもの全體について智能檢査を施し、そして智能率を算出して、その分配狀態を見ると第一圖の實線に示す樣な蓋然曲線 Probability curve で示すことが出來ます。即ち、極めて劣等な素質のものも又極めて優秀

第一圖



な素質のものも共に、その出現數は極めて少くて、最大多數は平凡な人即ち平均値に等しい邊りの智能の人である。（如何なる生物學的測定に於ても適當な尺度で多數のものについて測定すれば大抵の場合に右の如き分配曲線を描くことは從來證明されて居る處であります）然るに、日本人で外國に進出して居るもの丶智能は第一圖に於て點線で示した曲線の樣にやはり蓋然曲線的分配をなすけれども、劣と優の兩極端に當るものがない爲に、その分配の範圍は極めて狹いものになる。而してその平均を求めると、その平均線は丁度實線に於ける平均線と一致すると考へられる。即ち、ヴアンクーヴア地方在住の日本人の智能の平均は日本内地に於ける智能の平均を代表するといふことが出來るのであります。以上の結果によりますると日本人の智能は極めて優秀であつて、餘程割引して考へても今日文明の牛耳を握つて居ると稱せられる北歐人に比較して遜色がないといひ得るでありませう。

日本人の智能が優秀であると結論いたしますとそこに一つの疑問が起ります。それは今まで日本人が外國人の模倣のみをして獨創的の處が少いではないかといふ疑問であります。實際に今日まで諸外國人もその樣に云ひ、日本人自身も亦模倣性に富んで獨創力が少いと考へて居たのであります。果して日本人に獨創力が少いのでありませうか。私はそれに對して否と答へるのであります。それは、第一に獨創と模倣とは劃然と區別のつくものではない。模倣が合流して獨創となることが多い。第二に、獨創力といへば多くは科學的の研究やその應用について考へる樣であるが獨創は決して科學の方面には限らない。人間の社會生活のあらゆる方面に於て獨創力は發揮せられる。即ち科學の方面の外に、經濟、政治、藝術、道德、宗教等の諸方面があつて、此等各方面に於ける日本人の獨創は枚擧に遑がない位である。唯、從來は西洋を基準にして考へて居たから、彼れにあるものだけについて日本に於けるものと比較して、日本にのみあつて彼れにないものは之を捨て丶顧みなかつた爲に、日本人に獨創力がないといふ樣に考へたのである。第三には、かりに一歩を讓つて科學的研究とその應用だけについて考へるに、なる程、科學に於ては歐米は先進國である。併し、それは日本人に科學的の獨創力がない爲に遲れたのではなく、日本の過去の社會狀態がそうさせたのである。その證據にはよい環境の下にあつては白歐人すら驚歎する獨創的研究の多くが日本人の手によつて行はれて居ることは既に御承知の通りであります。その中でも特筆すべきことは米國の學界に於て令名を馳せた高峰讓吉博士と野口英世博士の業績でありませう。此の外、日本人が獨創力に於て決して劣つて居るものでないといふことを立證する幾多の事實がありますが、右述べた所で十分であると考へますから、その餘の點は省略して置きます。

次に人の精神活動中で、人物、人柄、性格等を決定するに重要な役目を演ずる感情意志の方面について考へるのでありますが、情意的特徴の基礎は氣質にある。而して氣質は之を種々の見地から分類することが出來ますが、今日行はれて居る分類法に、内向性 Introvert と外向性 Extrovert とに分ける方法があります。

内向性といふのは自分の思ふことを感じたことを容易に外に發表しないで、心の内の變化を樂む性質であり、從つて、此の種の人々は社交的でなく、獨居を好み好奇心の強い傾向がある。之れに反して、外向性といふのは自分の思想感情を容易に外に發表する傾向が著しく、社交的で、群居を好み、好奇心が弱いのであります。

同一民族中でも何れかの傾向の特に著しいものを見出し得る樣に、民族が異ると内向性に於て著しいものと外向性に於て著しいものとがあります。これを知るには諸民族の日常生活を虛心に觀察して、その結果を綜合すればよいのでありますが、それと共に有力な方法は各民族の有する神話、傳說、宗教、文學、藝術等に於ける特徵を觀察して、それによつて、各の民族の氣質を推定することである。此の方法はヴントといふ心理學者によつて人類の精神の發達の有樣を研究する民族心理學の方法として發展させたものであります。ヴントのは一般に人類の發達といふことを主眼として研究したのでありますが、その方法を移して、各民族の特異性を研究する所謂民族性心理學の研究法とすることが出來ます。そこで、こゝに先づ日本の文藝に現はれた特徵から日本人の氣質を推定して見ることゝします。

何れの民族でも詩歌を有たないものはありませんが、日本民族の有する詩歌は歐米のそれと比べると著しく異つて居ります。西洋の詩は概して說明的であり、くだ〳〵しいのに對して日本のこれは簡潔であつて、所謂想が餘つて言葉が足らぬのであります。その特徵を最もよく現はして居るのは俳句であります。伊藤月草氏の擧げて居る例を以て說明しますれば、例へば

『道端の小川の邊に、洗はれた葱が白々と積まれてあるのを見て非常に寒いと思つた』といふ散文で言ひ現はした情景を芭蕉翁は

葱白く洗ひ立てたる寒さかな

といふ一句に收めたのであります。之を三角形に譬へていへば、三角形の線を全部書き現はしたのが散文であり、それが又西洋の詩の行き方であるのに對して、三角形の三つの頂點だけを書き現はして各頂點間を空にして殘してあるのが俳句の行き方であります。何にも書いてない處は、それを讀む人の方で勝手に補ふことになる。此の樣な電信文の如き詩、想餘つて言葉の足らない詩を詠むことを好み、それを誦することを愛する民族は心に於ける變化を喜ぶものであるといはなければなりませぬ。即ち内向性なのであります。大凡、詩を誦し、繪を見て雅致があり、趣きがあり、深みがあるといふのは、それを誦み、それを觀照する人の心で補ふべき部分が多く殘されて居ることであります。俳句はこの意味に於て趣があり、深みがあるといはれると思ひます。

右と同じ傾向は又、日本畫に於て之を見ることが出來ます。日本畫の著しい特徵は線の力を利用すること、色彩をあまり用ひないで墨を多く用ひること及び餘白を利用することの三點であります、即ち、日本畫では外物に似せるといふことよりも畫家の心に映ずる外物の精神を筆の力に現はさうとする。そこ

で觀る人はその線の力に暗示されて畫家の現はさうとした精神を畫に於て觀るのであります。又外物は種々の色を以て現はれて居りますが、それをそのまゝに色で現はさないで一色の墨の濃淡で示すのであります。又何にも描いてない處に意味をつけて觀るのであります。これ等のことは皆、與へられたものに暗示されて觀る人の心に起る處の變化でありまして、此の心に於ける變化を樂むことは吾々の祖先や先輩の最も好む所であつたのでありまして前述の俳句に於ける特色と同じ性質のものであると考へられます。

次に日本の劇に於ては喜劇よりも悲劇が發達して居ること、音樂では悲調を帶びたものが喜こばれること、能の踊りが極めて象徴的であること等には皆心の内の變化を樂しむ傾向が著しく現はれて居ります。又音樂に於ては群集の前に於てよりも小室で演奏するに適して居ることは日本の繪畫が主として小室の裝飾として用ひられたことゝ共に日本人に群居本能の著しくなかつたことを證するものと考へられるのであります。

右の様な諸點を綜合して見ると日本人は元來内向性に於て優つて居る民族であると推定せられる。併しながら、文藝などの特徴についての觀察及び、それから推定する民族性は極めて主觀的のものであつて、觀察者が異なると異なつた結論を導き出し勝ちである。蓋し、同一民族の有する文藝中にも内向性の現はれと見るべきものが一方にあると同時に他方にはその反對の外向性の現はれと思はれるものも含

まれて居るから、觀察者の主觀によつて注意する方面が異るからである。例へば同じく日本畫でも南畫風の澁味のあるものがあると同時に光淋風の色彩の極めてはでやかなものもあり、音樂にしても極めて情趣的なものと共に極めて陽氣な氣分をそゝるものもある。それ故にそれ等のものから民族性を推定する場合には何れの種類のものが一般人によろこばれるかを基準として考察しなければならぬ。更に又民族心理學的方法に就て豫見を以て觀察し解釋する爲に、その結果に於て主觀性の著しく參加することが多い。その一例を申せば、或る人は天照大神が天岩戸にお隱れになつたとき多くの神々が岩戸の前で歌舞音曲を演ぜられたといふ事實を解釋して、これは日本人が元來陽氣性に富んで居た證據であるとするのでありますが、私の考へでは、天岩戸の事件から民族性を推定することに對して最も重要なことは、大神が岩戸をそつと細目にお開けになつた事實であつて、神々が岩戸の前で演ぜられた歌舞音曲は平素日本民族が行はなかつた異常のものであつた爲に大神の好奇心をそゝり奉り得たのであるとするのであります。即ち、若しも日本民族が常にあのときの様なことを演じて居たとすれば、『又例の如きものを演じて居る』と考へられて決して岩戸をお開けにならなかつたでありませう。細目にお開けになつたことは異常事件であつたことを證するのであると思はれます。この様に考へますれば、同一事實でも異つた解釋が下されることになるのであります。即ち、文藝等の解釋は極めて主觀的なものであるのであります。

右の如き次第でありますから、文藝その他の事實から民族性を推定するときには餘程注意して豫見を立てない樣にし、更に出來るだけ多くの客觀的事實によつて推定した考を檢證する必要があります。それではその樣な目的に適ふ材料があるかと申しますに、多少あるのであります。即ち、それは種々の社會視象についての統計の結果であります。

第一に自殺について考へて見ます。自殺の直接原因は、例へば病苦、貧困、煩悶といふ樣に種々ありませうが、同一の境遇に遭つても自殺する人と、しない人とがあります。然らば、どの樣な氣質の人が自殺し易いかといひますと、それは事件に遭遇して考へ込む內向性の人であります。即ち、自殺をするか否かは、その人の生れつきによることが多く、而して內向性の氣質の人が自殺し易いのであります。而して、一定の民族では社會に極めて著しい變動のない限り人口に對して自殺する人數の比率は殆んど不變であり、而して又民族によつてその比率に差異があります。そこで日本人の自殺者數の人口に對する比率を求めて見ますると過去二十箇年に於て、人口百萬人毎に大凡百七十五名といふことになります。然らば此の比率は諸外國のものに比して如何なる地位を占めるかといひますと、第九表に示してあります樣に丁抹に次いで世界第二位になるのであります。

色々の點から見て北歐人は內向性に富み、南歐人は外向性に於て著しいとされて居るが、表中デンマークから英國までは日本を除いて皆北歐人であつて、それ等は皆自殺數が多く、それに反して、同じ英

第九表　各國に於ける自殺數（人口百萬人毎につき一ヶ年間平均自殺數）

デンマーク	268
日本	175
南ドイツ	165
北ドイツ	150
スウエーデン、ノルウエー	127
南濠洲	90
英國	72
ウエールズ	52
北イタリー	46
ロシア	30
南イタリー	26
スペイン	17
アイルランド	10

國諸島內でもウエールズ、アイルランドの如くに南歐人の血の多い所と標本的な南歐人の住する南イタリー、スペインでは自殺數が少ない。而して日本は北歐人と同樣に自殺數が多いのであります。こゝに漠然と北歐人、南歐人といふ區別をしましたが、人種學上の區別では北歐に住まふノルド民族、南歐に住まう地中海民族とそれ等の中間地方から東歐に住まふアルプ民族の三つに分けるのが普通であります。ノルド民族は丈高く、皮膚の色白く、目は灰色で、金髮で鼻が高く頭は長頭といつて前後徑の大きな特徵を有つて居ります。之れに對して地中海民族は丈が低く、皮膚の色も目の色も黑みがちで頭髮は黑く、鼻は低く、頭は短頭といつて前後徑が比較的小さい特徵があります。アルプ民族は之れ等の二つの民族の中間に位するもので、ルーマニア、ロシア等に居るスラブによつて代表せられて居ります。此の人類學上の區別に從つていへばノルド民族は自殺者を多く出し、地中海民族はそれが少く、アルプ民族はその中間にあるといはれます。

次に他殺といふ現象について考へて見ます。他殺も亦、各國別にして、その人口に對する比率を調査しますと毎年殆んど恒常數が得られます。而して自殺者の多いノルド民族では他殺者が少く、自殺者の少い地中海民族では他殺者が多く出るのであります。而して日本は、やはり北歐人と同じ樣に他殺者が少いのであります。一つの例を申しますと、イタリーは他殺者の多い所でありますが、その同じイタリーの中でも北の方に少く南の方に多いことになつて居ります。これも、やはり人種の關係がその重要な原因をなして居るかとおもはれます。それではどの位の他殺者があるかといひますと人口百萬人毎に北部イタリーでは三十人、中部イタリーでは百人、南部イタリーでは百六十人といふことになつて居ます。而して我が日本では、過去三十年間の統計によりますると人口百萬人毎に毎年十四人餘といふ極めて少い數を示して居ります。暗殺は別として、他殺は多くは感情の激發する性質のもの即ち外向性のものによつて行はれ易いのであります。即ち、他人と口論をしたり、夫婦喧嘩をして直ぐに出刀を振りまはしたり、ピストルを發射するといふ種類の人々であります。して見れば他殺者の少いことは衝動的行動をする外向性のものがその民族中に少いことを意味し、反對に他殺者の多いとは外向性のものがこの民族中に多いことを示すことになるのでありませう。

次に、精神病の種類について考へて見ます。大凡精神病といふのは何人にも具備して居る諸性質の中で或る方面が特に著しくなつて全體の釣合が取れなくなつた狀態であります。精神病院に行きますと色

々の種類の精神病者が居りますが、その一々の精神病は吾々正常なものが誰れでも有つて居る性質を特に顯著な形で示す、いはゞ見本であります。それですから、或る精神病者を見たならば、その精神病の如き性質を或る程度に於て吾々も有つて居ると考へてよいのであります。從つて或る民族に特に或る種の精神病が多いといふことが分りましたならば、その民族にはその精神病の示す樣な性質が著しいのであると考へてよいのであります。歐洲で精神病患者を取り扱つた醫師の觀察する所によりますとノルド民族が精神病にかゝると憂鬱病にかゝるものが多く、地中海民族では之に反して發揚性の噪狂にかゝるものが多いといふ事であります。それでは日本ではどうであるかといふに、東京の松澤病院で調べた處によりますとやはり憂鬱病の方が多いことになつて居ります。此の點に於ても亦日本人はノルド民族と類似して居るのであります。

離婚數も亦民族によつて差異があります。自殺者の多いノルド民族には離婚が多く、自殺者の少い地中海民族にはそれが少いのであります。而して日本では結婚一〇〇組に對して約一〇組位の離婚があつて、世界第二に位する離婚の多い事になつて居ります。尤も日本では近來結婚の手續が漸次改善せられるので年々離婚數の割合が少くなつて居りますが、而かも尙世界第二に位する程に多いのであります。尙歐米では宗教上の慣習によつて容易に離婚し得ないことになつて居りますから、離婚數について日本のを歐米のものと比較するのは無理であるかとおもはれますが、離婚の多少が、民族の氣質を考察す

る一つの有力な材料となることゝおもはれます。

最後に宗教のことを考へて見ます。何れの民族も宗教を有たないものはありませんが民族によつて、その信仰する宗教に差異があります。歐洲の諸民族の信仰する宗教は大體キリスト教でありますが、キリスト教には舊教と新教とがあります。舊教にはギリシャ教とローマ教の二つに分れて居り、而して唯此の二つだけであります。その中ローマ教はイタリー、スペイン等の地中海民族によつて信仰せられ、ギリシャ教は大體アルプ民族によつて信仰せられて居り、之れに對して新教は大體ノルド民族の信仰する所であります。而して新教には無數の流派のある處が舊教と著しく異るのであります。内向性は心の中の變化を樂み好奇心の強い傾向を有つて居るのでありますが、好奇心の強いものでは單に傳統的な説教を聞いただけでは滿足出來ないので、バイブルを自分の考へで自由に解釋することを試み、又等しくバイブルを讀んでもその重要點を發見することに努める樣になり、その結果は流派又流派を生じたのであらうと考へられる。これが内向性のノルド民族の信仰するキリスト教は新教であつて、その中に幾多の流派を生じた所以であらうとおもはれるのであります。然らば日本の宗教はどうであるかといふに、我國には昔から惟神の道としての神道があつて、それに十幾個の流派があり、支那や印度から齎らした佛教には五十幾個の流派があつて、その中には日本人自身によつて開かれたものが少くとも數種はある。彼の親鸞の教と日蓮の教はその中でも重要なものであります。更にキリスト教は遙か後に輸入され

たが、その中で重要な流派は新舊共に何程かの信仰者を得て居るといふ有樣であります。恐らくは宗教の種類の多いことに於て日本は世界稀れに見る處であらうとおもはれるのであります。勿論何れの民族にも成立宗教に對しては殆んど無關心のものから極めて熱心なものに至るまで無數の段階があるのでありますが、その民族中に行はれて居る宗教の種類の多少といふことは民族性の一つの現はれであると考へてもよいであらうとおもはれます。而して自殺者の多く出る如き民族間には種々雜多の宗教が流布して居るといふことになります。

以上述べました處を綜合しますると、日本民族と北歐のノルド民族とは餘程似通ふ所があります。即ち、自殺者と離婚者の多いこと、他殺者の少いこと、精神病者中に憂鬱病患者の多いと、宗教に無數の種類のあること等であります。而してこれ等の諸現象は皆内向性の特徴として一般に考へられる所であります。さうしますると種々の社會現象についての客觀的、統計的觀察の結果は、さきに文學藝術等についての觀察の結果から推定しました樣に日本民族は内向性に富んで居るといふことになるとおもふのであります。

さて然らば、氣質としては内向性と外向性と何れが優れて居るかといふ問題が起りますが、それはなか〳〵決定の困難な問題であります。蓋し、時と場合とよつて何れかの一方がよいからであります。併し、之れを人間の發達といふ點からいひますと内向性のものが一層優れて居るといふことになります。

第一に現代優れた民族と考へられて居るものは一般に内向的傾向が強く、之れに反して劣等民族と考へられて居るものは外向的傾向が著しいこと、第二、一定個人が小供から大人になる經過を見て居ると初め、外向性に富んで居るものが發達するにつれて内向性になること、第三には同一個人がアルコールの影響を受けたときと、そうでないときとを比較すると前の場合は外向性を發揮することが著しいこと、更に又、之を精神身體的に考へると外向性のものは常に勢力を浪費することになる、以上四つの方面から考へて外向性よりも内向性の方が人物として一層優れて居り、能率的であると推定することが出來るのであります。而して日本民族は之を全體として見ると、その優れたと考へられる内向性に富んで居るといふことになるのであります。

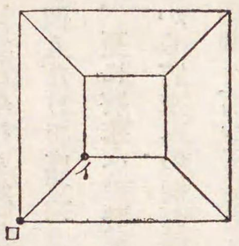
以上述べた所を通覽いたしますと、第一、日本の物質的方面には種々の點に於て不十分な處がありますが、決して悲觀すべき程のものではありません。殊に、その缺けた點は吾々が滿蒙に著眼して、そこに吾々が有する權益を十分に活用することによつて十分に補ひのつくこと、信じます。物質的方面で特にうれしいことは吾々の活動能率を左右する空氣の狀態が比較的良好なといふことであります。更に、眼を轉じて日本の人的方面について觀察しますと、日本人の體格は從來多く人々が考へて居た樣に劣惡なものでは決してなく、殊にその機能に至つては優秀であること、その智能は餘程割引して見ても世界中で最も劣れたと考へられて居るノルド民族と比較しても決して劣つては居ないこと、又その氣質は内

向的傾向が著しいのであつて之れ亦吾々の意を強うする所であります。

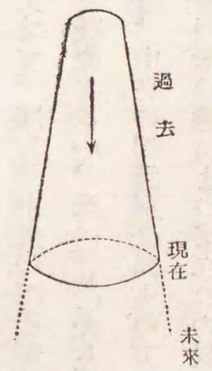
さて以上列擧しました如き事實は之を建築に例へて見ると、その建築材料であります。建築に於きましては同じ材料を用ひても、その設計如何によつて著しく異つた建築物の出來ることは誰れでも知つて居る所であります。設計の差異は著眼點の相違であります。此の著眼點の相違によつて同じものが異つたものに觀へることは第二圖について觀察いたしますと明かになります。

第二圖は十二本の直線を結合した一つの平面圖であります。今、吾々が圖中「イ」を凝視するか、又は「イ」に著眼して「ロ」の方に眼球を動かしますと、全體の形は一つの立體として見えます。即ち、中央の四邊形は自分の方に突出して見えるでありませう。次に、著眼點を變へて「ロ」を凝視するか、又は「ロ」から「イ」の方に眼球を動かして行きますと、前とは異つた形體を認めます。即ち、中央の四邊形は向ふの方に引込んで見えるのであります。此の樣に同一材料による一つの平面圖が目の附け處によつて二つの異なる立體となつて現はれるのであります。國家と個人の關係についての考へ方も同樣に此の目の附け處によつて異つて來ます。歐米では何でも個人を中心にして考へて、國家は個人の集りと考へるのでありますが吾々日本人は昔から國家を中心にして考へるのであり

第二圖



第三圖



ます。此の個人と國家の何れを先きにして考へるかの差異は國家の成立事情が違つて居ることから來ることは諸外國と日本の歴史を讀めば明かになることであります。而して、個人と國家の關係について何れの考へ方が正しいかと申しますと、それは日本流の考へ方が正しいのであります。おもふに、國家は決して或る時期に突然に現はれたものではありません。祖先以來の精神的努力が蓄積した結果であります。之を圖で現はしますと第三圖の樣になります。即ち、發達する國家は年代を經るに從つて段々充實し、膨脹して行く筒と見ることが出來ます。從つて國家は現代の各個人だけで成立つて居るものでなく、現代の個人の上に過去の人々の精神的遺産が加はつたものであり、更に將來への發展の可能性を有つて居るものであります。國家は一面、此の樣に過去から現在、現在から將來への縱の聯關を有つて居る上に、更に他面、現代人相互の間には切り離すことの出來ない横の聯關を有つて居るものであります。即ち吾々は縱と横の聯關といふ關係の中にあるのであります。而して何れの聯關も大切でありますが國家を考へるときには此の縱の聯關が最も大切なのであります。然るに此の縱の聯關は兎もすれば無視せられ勝ちであります。特に西洋流の考へ方にこの缺點があるのであります。彼の勞農ロシアの考へ方はその最も極端なもので、切り離すことの出來ないあらゆる傳統を破壞して行かうとするのであります。此の樣な考への間違ひであることは一つの家族のことを思ひ浮べると直ちに分ることであります。自分といふ今生きて居るものだけが、その家をなして居るのではなく祖先からの精神的遺産が家の成立ちに於て重要な要素になつて居ります。即ち自分といふ個人は縱の聯關といふ一つの生命の流れの中に於ける一つの波に過ぎないのであります。而して、その生命は更に將來に於ける子孫といふ個體によつて代表せられる一つ〳〵の波によつて繼承されて行くのであります。而して、我日本の國家は人がいふ如くに一つの家族の擴張されたものであります。即ち、皇室を中心とした一大家族であります。從つて日本に於ける道德では忠孝一致であつて、父母に孝なることは大君に忠なる所以であるのであります。而して、之れが我國に於ける國民道德の中軸をなすものであります。從つて日本に於ては個人よりも皇室或は國家を以て一層重いとし、一身を捧げて君國の爲に盡すのであります。

國といふ全體的のものを先きにして個人といふ部分的のものを後にする考へ方の正しいことは色々の經驗からも推定することが出來ます。例へば、私がこゝに鉛筆で黑板を打つて音を出し、その音を初め強く、次に弱く、次に強く、弱くといふ樣に即ち、(—(—(—(—の如くに連續せしめると、之を聞いて皆さんは一つの強弱律のリズムを感得せられるでありませう。又その音を—(—(—(—の如き順に音を

出しますと之を聞く皆さんには弱强律を認められるでありませう。然るに、此のリズムは個々の音には備つて居ない性質で、多くの音が一定の順に出て來るときに現はれる全體的の性質であります。而して、同數の强音と弱音とを組合せても、その順が異つてると異つたリズムが構成されるのであります。又こゝに三角形があるとします。その三角形は一つの纒つた全體的のものであります。處が、その三角形の一つ一つの線を切り離して見ると各の直線には何等三角形の有つ性質はないのであります。つまり三つの直線が集合して一定の關係に置かれたときに初めて三角形といふ性質が出來るのであります。又、こゝに『森』といふ現象があるとする。森はいふまでもなく、多くの樹木が一所に生へて居るときに名づけたものでありますが、今かりに一本づゝの樹木を取つて來て見ると各の樹木には決して森の有つて性質はないのであります。以上列擧しました事例によつて明かな如く勿論個々の音、個々の線、個々の樹木がなければリズム、三角形、森は成立たないのでありますが、全體としてのリズム、三角形、森にはその部分たる音、線、樹木以上の或るものであります。之を國家と個人との關係にいたしましても同樣でありまして、國家は個人の集合以上の或るものであります。

右の如き事實を自覺して居ると否とにかゝはらず、古來日本人は殆んど總てのものが、全體としての國を以て個人以上のものと考へて身を犧牲にして君國に盡して來たのであります。即ち、日本人の中心的の思想感情は國家を先きにして個人を後にする所にあるのであります。

一國の存續とその發展とに對して、ちやうど建築に於ける設計にも比すべき此の著眼點或は中心思想が今の如きものであり、而して建築の材料にも比すべき、日本の物的條件及び人的條件は前に述べた通りでありますから、日本の將來については樂觀すべきであると考へるのであります。勿論これは此の中心思想が、今までの通りで進んで行くといふことを豫想しての事であります。それ故に若しも日本民族が在來示して來た如き中心思想に變化を生ずる樣な事があれば、如何に個人としての身心の素質はよくても又物的條件が將來の文化を支へ、國力の充實上よい狀態にあつても早晩衰亡しなければならぬのであります。

然らばこの傳統的に根强い基礎を有つて居る中心思想を變化せしめる條件は如何なるものであるかといふにそれには色々ありますが次に擧げる四個條は特に重要であります。

第一に日本の國體が萬邦無比な有り難い所以を明確に知つて居ないこと。我國の國體の特異性を十分に了解して居ないと國體の異つた外國に起つた思想に容易に動かされ勝ちであることは言ふまでもありません。彼の共產主義の思想がロシアに起つたことには理由があるのであるが、我國の若い敎養のあるものゝ間に此の思想にかぶれるものゝ出て來たのは我國の國體の有り難さを十分に知らないことに基くことが多いと考へられるのであります。それ故に、若い人々をして國體の有り難さを知らしめる爲に實例に基く訓話を試み東西の歷史と日本の歷史とを比較研究する機會を與へることが必要であります。

中心思想を變化せしめる第二の條件は觀樂の追及といふことであります。文化が進むと人々に餘裕が出來るのが原則である。處が人は元來苦を避けて樂を求める本能を有つて居るから、閑暇を利用して、賢明な樂みをすることは何人にも甚だ困難なことで、多くは感覺的歡樂に走るのが常である。その結果は惰弱になり、不道德的行爲を敢てする樣になり、又、感覺的歡樂は金錢によつて得られることから精神的方面の尊いことを忘れて物質尊重、拜金の風潮を誘起することになるのであります。物質偏重の思想が漲ぎるときには人は概して個人主義的になり、從つて國家を中心として考へるといふ樣な考へが弱まらざるを得ないのであります。それでありますから、若い人々に對しては閑暇の利用法について適當な指導を與へなければならない、而してその爲には努めて剛健の氣象を養ふに適した競技等を行はしめることが望ましいのであります。

中心思想を變化せしめる條件の第三には交通の頻繁の爲に起る傳統の力の弱まることであります。文明の進むにつれて諸民族間の交通が便利になり益〻頻繁の度を加へる結果として異民族の間に發達した種々の新しい習慣、傳統、信仰、學說が輸入せられ、從來からある固有の習慣や傳統が、その力を弱められるのであります。外來の慣習や思想も在來の慣習や思想を精練することに役立つことがあるが、その爲には日本的なものについての深い理解と自覺がなければならぬ。此の點に對しては日本人の優越して居ることを知らしめて、自信を高めしめ、徒らに西洋風を模倣することの價値のないことを充分に了

解せしめ、自覺のある日本人として行動する樣に導かなければならぬとおもひます。

中心思想を變化せしめる條件の第四は生活の不安定といふことであります。大凡文化が進めば人々の生活の水準が高まるものであります。殊に交通の利便といふことが益〻生活水準の高上に對して拍車をかけるのであります。從つて人々が社會に於て安定した滿足な生活を營む爲には物質的な報酬を多く得なければならぬ。然るに世の中の仕事は多くは分業的になつて居て多くの收入を得る爲にはその道に於て有能であり、堪能でなくてはならぬ樣になつた。又之を產業の方についていへば有爲堪能なものを使用しなければ世界の經濟戰場裡に立つて優勝することが出來なくなつた。そこで有爲堪能な働きのあるものは生活の安定を得るけれども、そうでないものは一方に徒らに生活の水準が高くなつて居るのに、それに應ずる收入を得ることが出來ないのであります。社會は多くの場合に公平なものでありまして多くの人々に對してそれ〴〵その有能の度に應じて待遇して居るのでありますが、優遇を受けない個人としては、その樣にあきらめられないのであります。それは何人にでも自惚といふものがあつて、之を點數でいひますと世間の人々からその人の價値として七十點を與へられて居るものは、自分で自分を評價すると八十點とか九十點位の價値のあるものと考へるのであります。即ち、人は誰れでも自己を過大視する傾向の著しいものであります。それでありますから、たとひ適當な職を得て居るものでも、その與へられる待遇に對して滿足するものは少いのであります。蓋し、自己評價の結果はそれに、應ずる待遇

をして貰ひたいといふ欲求があり、而して、待遇についての滿足の度は"待遇÷欲求＝滿足の度"となるからであります。このことに關聯して興味のあるのは文豪カーライルが、『汝の欲求を零にせよ、然らば汝の幸福は無限大ならむ』といつた言葉であります。氏の考によれば"幸福の度＝$\frac{1}{欲求}$"の如き公式で示される。それ故に欲求を零とすればその値は無限大となるとするのであります。さて前の話に歸つて申しますと一般の生活水準の高上と、自己の過大視といふ所から現實には生活の安定を得ないし、又精神的には幾ら收入が增加しても滿足を感ずることがなく、常に不平不滿で日を送るといふことになります。不平であり、不滿であつて、中心思想の方向が適正であることを希望することは出來ないのであります。それでありますから、一方には出來るだけ質素な生活に慣れしめて、生活の水準を高めることを避けしめ、他方には謙虛な氣持を養成して自己を正當に評價することを得しめる樣に導くと同時に、よくその長所短所を發見して適所に就かしめる工夫をしてやらなければなりませぬ。我海軍に於て早くから實行され居る掌電兵や少年航空兵の適材選拔法は海軍力の向上を圖ることを目的とするものでありますが、此考を押し廣めて各人をして、その適所を得しめる如き職業指導法を實行することは思想善導の上から見て重要なことであります。

以上述べました如き諸條件、即ち、日本の國體の特異性の有り難いことを明かに知らないと、歡樂を追うことから來る物質尊重主義になること、交通の頻繁から來る傳統の力の弱まること、生活の水準の高上と自己の過大視から來る社會に對する不平、不滿が中心思想の變化を齎らす重要な條件であつて、それ等の各について、それ〴〵對策がある筈でありますが、要は物質よりも精神的なものを尊重する心の習慣を養成するにあると考へられます。その爲には家庭教育法、學校教育法や、社會的施設等に於て大に改善すべきものがありませうが、皆さんの直接關係して居られる軍隊に於ける訓練に於て特に力をその方面に入れられる樣希望に堪へない所であります。若しも社會のあらゆる方面の人々の努力によりまして、日本人が傳統的に持つて居る中心思想を維持し發展させて行くことが出來ましたならば、たとひ物質的には惠まれて居ないにしても、此の優れた智能、彼の良い氣質、從つて强い意志を有つて居る日本民族は必ずやその將來に橫はる多くの難關を突破して益〻大なる發展をいたすものと確信するのであります。

私の話はこれで終りとします。長時間に亙つての御靜聽を感謝します。

〔附記〕 海軍省教育局の依囑により昭和七年三月一日大湊要港部で講演したのを始めとして、その後吳、江田島、舞鶴、橫須賀等で講演する機會を與へられたことは私の最も光榮とする所であります。各回約二時間の講演で、その聽講者の種類によつて多少づつ內容を異にしたのでありますが、こゝに記述したのは大湊に於ける「日本國民性と日本の將來」と題する講演の筆記を基として各地の講演の內容をとり混ぜて補綴したものであります。內容の貧弱なことは恐縮に堪へませんが、一度聽講せられた方々に對しては此の筆記錄が想出の種となり、講演會に出席せられなかつた方々に對しては多少の參考資料を提供することが出來ましたならば私の望外の幸であります。

此の原稿を纏めて後、靜かに講演をした當時及びその後起つた樣々の事柄を省察して感慨の深いものがあります。當時既に始まつて居た滿洲事變及び上海事變、續いて熱河平定に於て我が陸海軍人の示された忠烈武勇な行動によつて日本の傳統的精神が益〻精練せられて居ることを知つて感激と感謝の念を禁ずることが出來ない。又日本の立場についての列國の無理解から日本の聯盟離脱は痛快なことであると共に今後益〻國民の覺悟と努力とを必要とするに至つたことを痛感せざるを得ないのであります。而して又列國が皆國家本位的政策を固持することから世界經濟會議の失敗を招來したことは益〻本來の國家中心思想を强調しなければならぬことを强く感ぜしめられたのであります。『四海同胞主義は人類究極の理想である。日本民族の精神文化の宣揚によつて世界人類を導いて協調の道程に上らしめなければならぬ。けれども正義は常に之を擁護する覺悟を必要とする。正義の戰に對する準備なき民族即ち現實を忘れた民族は結局高遠の理想に達し得られない。』これは今から八年以前に出版した拙著「日本民族の將來」の末尾に掲げた一節であります。而して、これは永久に眞理として殘るであらうと信ぜしめられるのであります。

（終）

J A